

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 豊郷 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	217人	国語B	217人
② 数学A	217人	数学B	217人
③ 理科	217人		

5 留意事項

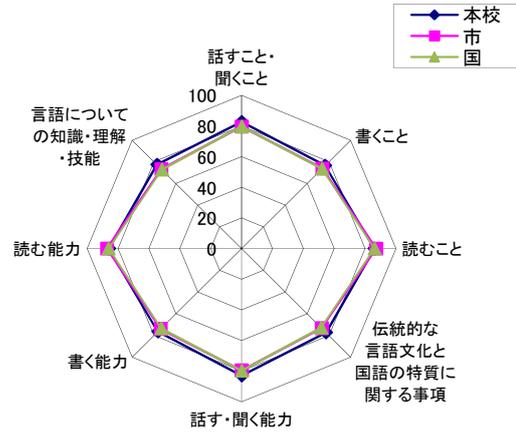
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

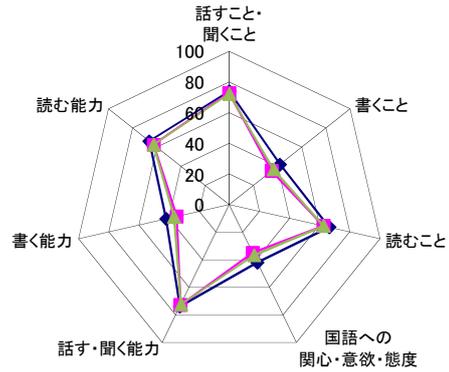
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	82.8	79.5	79.7
	書くこと	76.5	74.1	73.6
	読むこと	86.0	87.2	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.4	73.4	72.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	82.8	79.5	79.7
	書く能力	76.5	74.1	73.6
	読む能力	86.0	87.2	86.1
	言語についての知識・理解・技能	77.4	73.4	72.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.9	72.8	72.2
	書くこと	41.9	35.0	36.7
	読むこと	66.3	62.6	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	41.9	35.0	36.7
	話す・聞く能力	73.9	72.8	72.2
	書く能力	41.9	35.0	36.7
	読む能力	66.3	62.6	62.6
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 国語に関するほとんどの質問において、肯定的な回答の割合は全国平均を上回っている。
- ただし「国語の授業の内容はよく分かるか」という質問に対しての肯定的な回答が、県平均を2.3%下回った。
- さらに「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと感じるか」という質問に対して、肯定する回答が全国平均が64.4%であるのに対し、本校は65.9%とより抵抗を感じていることが明らかになった。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

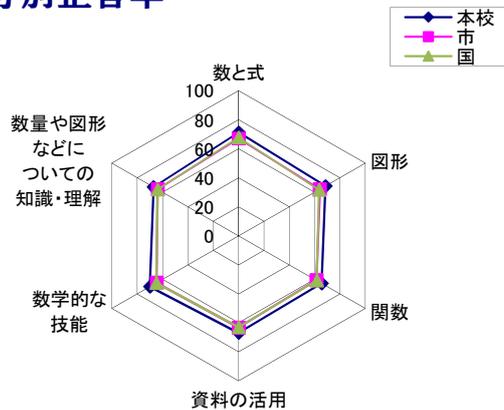
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○話すこと・聞くことにおける平均正答率は、すべて全国平均を上回っている。 ○特に「インタビューにおける質問の意図」に関する問題では、正答率が全国平均を4%前後上回り、必要に応じて質問しながら聞き取る力が身につけていることがうかがえる。 ●「成否」という言葉を、聞いてわかりやすい言葉に言い換える問題では、無解答率が12.4%と高く、課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や相手に応じた言葉を選択し、よりわかりやすく伝えることを意図した話し合いを設定する。 ・さらに質問紙において「友達の前で自分の考えや意見を発表することは好きか」という質問に対して、肯定的な回答は57.2%にとどまっているため、授業の中でも一部の生徒にだけ発言する機会を与えるのではなく、より多くの生徒にこういった機会を経験させていきたい。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○書くことにおける平均正答率は、すべて全国平均を上回っている。とりわけ国語Bでは、全国平均を5.2%上回る結果となった。 ○特に、複数の資料を活用し自分の意見を具体的に書く問題では、正答率が全国平均を8.8%も上回っている。 ●意見の根拠の明確さについて適切な助言をする問題では、全国平均を0.5%下回り課題が明らかになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」への抵抗感をなくそうと、授業でも自分の意見を書く場面を意識的に多く設けているので、今後も継続していきたい。 ・記述式の問題において、複数の領域の観点が絡む問題での無解答が目立つので、読み取った要旨を自分の言葉でまとめる活動や、文章の構成や展開を踏まえ、根拠を明確にして考えを述べる活動などを取り入れ、重点的に指導していきたい。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○国語Bでは全国平均を上回ったが、国語Aでは0.1%下回った。 ●国語Aの読むことの問題の5問中、正答率が上回ったのはわずか2問であり、特に登場人物の言動から内容の理解する能力に課題がある。 ○国語Bの読むことに関する問題の6問中、正答率が下回ったのは1問のみで、ほとんどの設問で全国平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直截的な表現ではなく、登場人物の行動や言葉、情景描写から心情を読み取る活動をより積極的に取り入れ、行間を読む力の育成に努めていきたい。 ・また質問紙において「新聞を読んでいるか」という質問に対して、週に1～3回まで読んでいると回答した生徒がわずか22%という低い割合だったので、新聞を活用した授業を意識的に取り入れていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、全国平均を4.5%上回った。 ○語句の意味を適切に理解し、文脈に応じて適切に使う力を問う問題では10.9%も上回る結果となった。 ●古典の作品名を漢字で書く問題では、正答率が全国平均を下回った。 ●『青い』と『青さ』の品詞の類別を問う問題では、正答率は全国平均を上回ったものの、46.5%と半数を割る結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎時間行っている、漢字や慣用句などに関する小テストの実施が成果に出ていると考えられるため、今後も継続的に取り組んでいきたい。 ・今後は古典常識の定着を図る問題も、小テストに取り入れ定着を図りたい。

宇都宮市立豊郷中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

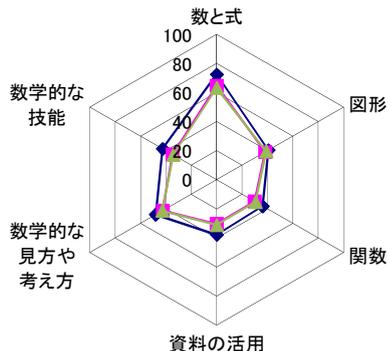
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	71.2	67.0	67.7
	図形	68.6	64.1	63.4
	関数	65.5	61.4	61.7
	資料の活用	66.9	63.3	63.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	70.1	64.8	65.0
	数量や図形などについての知識・理解	67.2	64.0	63.9



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	72.5	64.8	63.2
	図形	40.8	38.3	39.0
	関数	36.3	29.9	30.7
	資料の活用	37.8	30.4	31.2
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	48.1	42.6	42.8
	数学的な技能	42.6	34.9	34.2
	数量や図形などについての知識・理解			



★数学に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 数学に関するすべての質問において、肯定的な回答の割合は全国平均を上回っている。
- 「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている」「数学の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている」の質問の肯定的な回答の割合は10%以上全国平均を上回っている。
- 「数学の勉強は好き」と回答した生徒の肯定的割合は全国平均を上回っているものの(57.1%)、数学に関する質問の中で最も低い。

★指導の工夫と改善

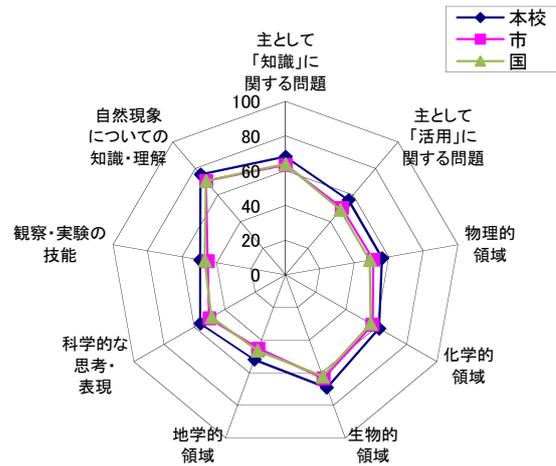
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ○数学A、数学Bとも平均正答率は全国平均を上回っている。特に数学Bでは全国平均を9.3%も上回っている。 ○数学A、数学Bともに「式の活用」に関する問題がよくできている。 ●小学校5年生で習った割合(もとにする量と比べられる量の関係)の理解が不十分な生徒が多いのが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算の定着に向けた反復練習を継続するとともに、時間を決めて、速く正確に計算する指導を心がけたい。 ・生徒の苦手意識が強い割合に関しては、1年時に小学校の復習の時間を確保し、学年間の連携をとり、意識的に割合に関する問題を取り上げるようにする。また、その定着のために、習熟度別学習や個に応じた指導の工夫をする。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ○数学Aの平均正答率は全国平均を大きく上回っている。特に数学Bでは全国平均を9.3%も上回っている。 ○数学Aでは特に「三角形の合同条件」についてよく理解できている。 ○数学Bでは「平行四辺形の性質」を利用して証明をする力が全国平均より高い。 ●数学Bでは「証明を振り返り、新たな性質を見いだす」力のみが全国平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形に関する知識・理解についてはかなり身につけているため、今後は、任意小集団により互いに図形を示しながら説明するグループ学習を多く取り入れ、知識・理解を利用して筋道を立てて説明する力をつける指導に力を入れていきたい。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生が苦手とする関数領域であるが、数学A、数学Bともに、全国平均を上回っている。 ○数学Aの問題から「比例・反比例・一次関数」の基本が身につけている生徒が全国平均と比べ多いことがわかる。 ●数学Bでは、全問とも全国平均を上回ってはいるが、全体的に正答率が低い結果になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の結果から、基礎・基本についてはおおむね身につけているといえる。今後はそれらを活用した日常生活に密着したさまざまな問題を解く機会を多く持ち、関数的な思考力を育てていきたい。 ・応用力を身につけるためには問題を読み解く力が必要であるため、国語科とのいっそうの連携が大切になると考える。
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○数学A、数学Bとも平均正答率はほとんど全国平均を上回っている。特に数学Bの「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する力」では7%全国平均よりよい。 ●全国平均よりは6%以上上回っているが、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」力が弱いことがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの資料を表や棒グラフ、円グラフなどのさまざまなグラフに表すことや、それらのグラフから傾向を読み取ること、また、比例や1次関数の形に表す力を身につけさせたい。 ・関数と方程式などの複合的な問題にも積極的に取り組ませるようにしたい。

宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	68.1	63.3	63.8
	主として「活用」に関する問題	56.2	50.3	48.8
分野等	物理的領域	56.1	50.9	48.9
	化学的領域	61.8	57.5	56.2
	生物的領域	69.2	63.4	62.2
	地学的領域	51.9	45.2	46.4
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	56.2	50.3	48.8
	観察・実験の技能	49.5	45.1	46.8
	自然現象についての知識・理解	75.5	70.6	70.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 理科に関するすべての質問において、肯定的な回答の割合は全国平均を上回っている。
- 「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか」の質問の肯定的な回答の割合は82.0%で、全国平均を特に大きく上回っている。
- 「観察や実験を行うことは好き」と回答した生徒の割合は59.4%で、全国平均を大きく上回っているものの50%台にとどまっており、観察・実験に対する関心・意欲に課題が見られる。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物理的領域	<ul style="list-style-type: none"> ○物理的領域の平均正解率は全国平均を上回っている。 ○日常生活の場面において、音の高さが高くなったといえる音の波形の特徴を指摘することができる生徒が多い。 ●上空を飛行中の飛行機内での菓子袋の膨らみを検証する実験について、空気を抜く操作に対応する飛行機の状況を推論できた生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気圧の変化について、基本的な考え方の定着を図る。 ・身近な自然現象について、検証したり、推論する練習をしていく。
化学的領域	<ul style="list-style-type: none"> ○化学領域の平均正解率は全国平均を上回っている。 ○二酸化炭素の体積を量る場面において、水上置換法では正確に量れない理由を説明することができる生徒が多い。 ●炭酸水素ナトリウムを加熱したときの質量の変化のグラフから、温度と化学変化の記述として適切なものを選ぶことのできた生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・化学変化における質量の変化や温度と化学変化との関係について、基本的な考え方の定着を図る。 ・グラフを読み取る練習を繰り返し行い、理解を深める。
生物的領域	<ul style="list-style-type: none"> ○生物領域の平均正解率は全国平均を上回っている。 ○他者の考察を検討して改善し、課題に対して適切な(課題に正対した)考察を記述することができる生徒が多い。 ●平均値を求める場面において、平均値を求める理由を説明することができる生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つ1つの実験におけるねらいを明確にして、理解しながら進めていく。
地学的領域	<ul style="list-style-type: none"> ○地学領域の平均正解率は全国平均を上回っている。 ○気象観測より露点を測定する場面において、最も高い湿度の時刻を指摘することができる生徒が多い。 ●天気分野における他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明することができる生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天気分野、地層・岩石分野など地学的領域における基礎的・基本的な知識の定着を図る。また、複数の分野を関連づけ考察をしていく練習をしていく。

宇都宮市立豊郷中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

すべての質問で肯定的な回答の割合が高く、また、全国や県を上回っている項目が多いことから、本校生徒は前向きな態度で生活している様子がうかがえる。

<学習に関すること>

○学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間や学校が休みの日における勉強時間では、全国や県と比較して長時間勉強している生徒が多い。

○学校や地域の図書館を利用する割合や「読書が好きである」と答えている割合が、全国や県よりも高い。

○学校の宿題を「している」「どちらかといえばしている」と答えている生徒が94.5%で、全国や県の割合を上回っている。

○学校の授業の予習を「している」「どちらかといえばしている」と答えている生徒が59%であるのに対し、復習は65.9%と6.9ポイント高いことから、家庭学習の中心が授業の復習や宿題であることがうかがえる。

●『自分で計画を立てて勉強しているか』の質問では、肯定的な回答が55.8%と半数以上であるが、「あまりできていない」と答えている生徒も35.5%と高いため、学習方法についての指導もさらに充実させていく必要がある。

<学校生活等><地域との関わり等><社会に対する興味・関心>

○『学校に行くのは楽しいか』の質問では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている生徒は89.4%で、全国や県の割合を上回っている。

○『学級みんなで協力してうれしかったことはあるか』の質問では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている生徒は94%で、全国を9.8ポイント、県を5.8ポイント上回っている。

○『地域の行事に参加しているか』の質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えている生徒が、全国や県よりも多い。

○地域や社会の出来事への関心では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えている生徒は73.7%で、全国を17.8ポイント、県を11.9ポイントと大きく上回っており、本校生徒の地域や社会に対する興味・関心の高さがうかがえる。

<自尊意識><規範意識>

○『ものごとを最後までやり遂げてうれしかったか』の質問では、肯定的な回答が96.8%と高く、全国や県の割合を上回っている。

○『自分にはよいところがあるか』の質問では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている生徒は82.5%で、全国を14.4ポイント、県を9.7ポイントと大きく上回っている。

○『友達の話最後まで聞くことができるか』の質問では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている生徒は98.2%と高いことから、本校生徒が友だちを大切にしながら丁寧に接している様子がうかがえる。

<家庭生活>

○テレビやビデオ・DVDの視聴時間、テレビゲームをする時間では、いずれも全国や県よりも少ない生徒が多い。また、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットの利用時間も全国や県よりも少ない生徒が多い。

○『家で学校の出来事について話すか』の質問では、「話す」「どちらかといえば話す」と答えた生徒が76.9%で、全国や県の割合を上回っている。

○『家の人が学校行事に来るか』の質問では、「よく来る」「時々来る」と答えた生徒が94%で、全国を10.6ポイント、県を2.4ポイント上回っていることから、保護者の熱意がうかがえる。